

笠間市議会清掃施設整備等調査特別委員会記録（第40回）

令和7年7月18日 午前9時00分開会

出席委員

委員長	西山	猛	君
副委員長	益子	康子	君
委員	長谷川	愛子	君
〃	酒井	正輝	君
〃	河原井	信之	君
〃	鈴木	宏治	君
〃	川村	和夫	君
〃	坂本	奈央子	君
〃	安見	貴志	君
〃	内桶	克之	君
〃	田村	幸子	君
〃	林田	美代子	君
〃	田村	泰之	君
〃	村上	寿之	君
〃	石井	栄	君
〃	飯田	正憲	君
〃	石松	俊雄	君
〃	大貫	千尋	君
〃	大関	久義	君
〃	小藺江	一三	君
〃	石崎	勝三	君
〃	畑岡	洋二	君

欠席委員

なし

出席説明員

なし

出席議会事務局職員

議 会 事 務 局 長	山 田 正 巳
議 会 事 務 局 次 長	石 井 謙
次 長 補 佐	鶴 田 貴 子
主 査	上 馬 健 介
係 長	神 長 利 久

議 事 日 程

令和 7 年 7 月 1 8 日（金曜日）

午前 9 時 0 0 分開会

- 1 開会
- 2 案件
 - (1) 市民説明会の報告について
 - (2) その他

午前 9 時 0 0 分開会

○西山委員長 委員の皆様、お忙しい中、第 40 回清掃施設整備等調査特別委員会に御出席を賜りまして誠にありがとうございます。

早速会議に入りますのでよろしくお願いいたします。

ただいまの出席委員は 21 名であります。欠席委員は大貫千尋君であります。遅刻の連絡がありましたのでよろしくお願いいたします。

定足数に達しておりますので、ただいまから会議を開きます。

議会事務局より局長、次長、次長補佐、主査、係長が出席しております。

本日の会議の記録は次長補佐にお願いいたします。

本日は執行部の出席はございません。

また傍聴の申出がありましたのでこれを許可しております。

○西山委員長 それでは本日の案件に入ります。

(1) 去る 7 月 13 日開催の市民説明会の報告について、出席されました各委員から御意見等を御報告願いたいと思います。事前にお知らせしてありますので、挙手によりお願いします。

なければこちらから御指名させていただきます。

それでは、長谷川委員から。

もしあれば。

○長谷川愛子委員 行政側からの説明は、私たちに説明をして頂いた内容よりさらに分かりやすい内容を市民の皆様説明していたので分かりやすかったです。市民側の意見とし

ては賛成の方もいらっしゃったし、反対の方もいらっしゃって、多種多様のいろいろな意見が聞けてとても実りのある時間となりました。

ありがとうございます。

○西山委員長 ありがとうございます。

大貫委員が着座いたしました。

続きまして川村委員お願いします。

○川村和夫委員 私も長谷川委員と同じ感じを受けました。市民の方にですから分かりやすく説明したというのもありましたけど、あれだけ質問がいっぱい出て、相当な時間を割いたというのは、やっぱり市民の方が物すごくこの清掃施設に関して関心があったのと、あとは市全体のことを考えて、市の清掃施設の整備に関して中心的に考えて、派生的にもいろいろな市のまちづくりをどうのこうのしてくださいとかという意見が出てたのが物すごく私自身ためになりましたし、市民の方も相当関心をお持ちなのだなという印象を受けました。

以上です。

○西山委員長 ありがとうございます。

続きまして、坂本委員。

○坂本奈央子委員 私もお二人の意見と同じように、市議会に対して説明していた以上のことは市民に対しても説明していなかったし、とても分かりやすい説明だった、簡潔に説明されていたという印象を受けました。

以上です。

○西山委員長 ありがとうございます。

続きまして内桶委員。

○内桶克之委員 私も出席したのですが、説明時間は20分程度、質疑時間が1時間程度という形で、1時間20分程度だったのですが、初めて出る人に対しては、前に一回説明している状態から説明なので、細かいことはちょっと分かりにくかったと思います。ですから、質問のときにマテリアル施設というのはどういう施設なのか、バイオ発電というのはどういう発電なのかという質問もありまして、最初に出た人にとってはちょっと分かりにくかったのかと思います。ただ、何回も聞いてる方については、処理方式の変更、延命化でいきますという形は伝わったと思います。それと質疑応答の中で、5、6人だと思うのですが、市全体の脱炭素のこととか、バイオ発電をやめた理由とか、大郷戸に建設中のバイオマス発電所との関係とか、そういう質問をしていて、市民の方がなかなか分かりにくいところをトータル的に質問していたかと思います。

以上です。

○西山委員長 ありがとうございます。

続きまして、田村幸子委員。

○田村幸子委員 私は途中からになってしまったので、説明の部分はほとんど聞けなかったのですけれども、質問がたくさん出たということは、皆さんの意識が高いのだということに改めて思いました。本当に初めて参加された方は、言葉一つ一つが分からない人もいらっしゃるし、意識の高い方はいろいろ勉強されていて、いろいろな御意見とかが多岐にわたってされていたのを改めて感じまして、この清掃施設の新設にしても、延命にしても、皆さん本当に高い関心があるのだということに改めて感じて帰ってまいりました。

ありがとうございました。

○西山委員長 それでは林田委員。

○林田美代子委員 私は一番思ったのは、議員 22 名で清掃施設の特別委員会を設置して今日で 40 回ですけれど、その中で議論してきてとてもよかった思いました。執行部の提案と私たちが食い違うときがあったとしても、全員で話し合いを持てたことが、この役割がこれからもあるのではないか、私たちの使命というか、役割を感じました。それとあと一つ、執行部からの資料説明の資料はもう少しあってもよかったのじゃないかな。初めての方が分からなかったという方もいらっしゃいましたけれど、すごく簡潔にまとめてあった資料でした。これからどうしていくのか、これで説明会が終わりなのか、私たちにも責任はあると思いました。

以上です。

○西山委員長 それでは大貫委員、よろしくお願いします。

○大貫千尋委員 執行部の進め方が全然私は理解できなかった。というのは、30 何回にわたって調査特別委員会をやって、13 日に何の説明をするのかという問いかけをしたときには、調査特別委員会で話した枠を出ませんということなのですが、何か、我々議員に対してよりも先に、50 名ぐらいの参加者、私数えたのですが 53 名だったです。議員と執行部以外の参加者、新聞には 70 名。

あと一つは、茨城新聞の記事がまるっきり議会を通り越して延命処置でやるかのような内容です。取材を受けたのか受けないのかは分かりませんが、あそこには記者は来ていなかったような気がした、私が見た感じでは、恐らくあれだけのはっきりした記事を書くということは、執行部の中の誰かから取材を受けて記事にしたと思うのです。これは私、正副委員長と事務局に提案するつもりでおったのですが、記事の内容について、誰々という固定した名前は、新聞記者からは出ないかもしれないのですが、執行部からの説明に基づいて書いた記事なのか、その辺の確認をしてください。記事の内容を見ますと、あと説明会の内容を見ますと、もう方針がさも決定したかのような感じなのです。だから、そういうところで、何か笠間の市議会があってもなくても、調査特別委員会があってもなくてもいいような形に私はあの説明会を聞いた段階では感じました。

残念なことは、執行部のほうが、残った方法の中で、バイオについては地元の反対があるので取りやめます。これからの焼却炉をどうするかについては、規模を縮小して新規

に建て替え用地があるわけですから、30何年前にも後でまた問題が起きるとということで建て替え用地を確保してあるわけです。延命処置でどのくらいお金がかかるのか、20年もつのか、30年もつのかということ。あとは規模を縮小して高効率発電をするのかしないのか、する場合どのくらいかかる、しない場合はどのくらいで済む。役所のほうで人口の推移を見たときに10年か15年後で6万5,000人ぐらいに縮小の傾向にある。延命でやる場合105トンでやろうとしてるわけです。24時間燃すことが一番効率がよくて、一回消えたやつをまた温度を戻すのには重油なり何なり用なわけだから、今16時間の炉なんてほとんどないです。人口に対して105トンでやった場合ごみの量が足りない。そうすると自然的に16時間になってしまう。そういう調査検討の結果を出した上で、調査特別委員会これ全員でやってますから、議会にこうなのです、これは幾らぐらいでできるのです、これはこうなのですという説明がない中で、建物をそのまま延命処置で、新築の場合は最低40年は使えるような基本的な設計でやるわけなのですが、それを20年延命するような説明だったのです。そういうことを一般市民に提案したり説明する前に議会とのすり合わせの中で方向を決定してから市民に説明するならともかく、議会の取扱いが非常にお粗末だと私は感じて帰ってきました。

○西山委員長 続きまして、大関委員。

○大関久義委員 市民の方がもう少し来るのかというふうに思っておりました。後ろの席をテープで貼ってあって、前のほうに来て頂きたいという意味でやってあったと思うのですが、もっと関心があるのかというふうに思っていたのです。大関委員が言われたように私も数えました、50人ちょっとぐらいだったのですけれども、関心ある方が来てくれたというと、7万人の中の50人と少し少なかったという気はしたのです。

説明の内容については、9月の定例会に調査費を計上させて頂き、延命をしたほうがいいのかどうか調査をして議会のほうに提示したいというような執行部の話だったのです。説明会で何を説明するのかということで、前の39回的时候に副市長がここに来て何を説明するのですかと言ったときに、議会に提案した以外のものは何も説明はしませんという答弁だったのですけれども、説明会に行ってみると、再検討の整備手法としては、新設建て替え、バイオか違うのか、基幹的設備改良いわゆる延命化、それから民間委託というような話があって、民間委託はしない、基幹的設備改良が建設費等々を比較したとき一番いいのだというような説明がありまして、そっちでやりたいという話の説明会だったのです。

9月に補正予算をとってその後というふうな話だったので、執行部としては延命化いわゆる基幹的設備改良で行いたいというものを我々にも言ってありますし、それはいいと思うのですが、ややもするとこの前の説明会では、基幹的設備改良の方法でやりたい、それしかないのだというような説明会になっちゃっていたような気がしたので、そこだけはちょっと残念だったという気はするのです。議会が調査特別委員会を設置して執行部と一緒に検討をしているのだという言葉は一度も出なかった。それが非常に残念だったとい

うふうに思いました。

そういったことで、これがいいのだという説明がありましたので、新聞の報道も同じように環境センター延命化ということで大きく報道されました。もうそれで決まったというように、一般市民の方は理解しちゃっているのじゃないかというふうに感じました。

以上です。

○西山委員長 はい、ありがとうございました。

それでは最後に、副委員長から。

○益子副委員長 まず、執行部の説明がありました、30分弱。これは市民にとってとても分かりやすい説明だと思いました。ただ、とても上べというか本当に簡単に説明されたので、私たちのほうが知識としては多分持つてると思いました。バイオガス発電から延命化になったいきさつみたいなのもある程度説明をされていたので、そういったことで市民は確かにそういうふうに理解したのかなというふうに思いました。

ただ、市民のいろいろな意見を聞いたのはとてもよかったのですが、ある市民からは、バイオガス発電とはどういうことか。マテリアルリサイクルとはどんなものかという、そういう基本的なものを分からないできた方も何人かはいたと思います。また、地球のことを考えてバイオガスを推進したらどうか、脱炭素ということを考えてはどうかというような意見もありました。また、バイオガスによる収益はどのくらいかなんていう質問に対して、その当時ですが年間400万円から500万円の売電ができるのですというような答えもあったかと思えます。そして、これからの目指すリサイクルの分別はというようなことで、執行部のほうからは、今後検討していくのは、紙おむつとか、木の枝類、あとは生ごみの分別など、この辺を今後検討していく。もちろんプラスチックの分別についても検討していくというような答えがありました。やはり、市長も一言だけ説明されていたと思うのですが、やはり人口減少、これは人口動態を見通すとやはり6万2、3,000人になるだろうということで、やはり、コストを下げる必要もある。そしてまた、過大投資はしないほしい、そういった地元からの要求も受入れて、そういった形になりましたというような簡単な説明も受けました。

また、意見として、若者の参加、若者にも知ってもらいたい、そういうような意見もありましたので、その辺は議会としてやっていきたいなと思いました。

本当に御苦労さまでした。ありがとうございます。

以上です。

○西山委員長 ありがとうございます。

いずれにしても参加をして頂きました委員各位の皆さん、御苦労様でした。大変お暑い中御苦労さまでした。

ただいま、委員の皆様からの現場の報告ということで頂きました。これから皆さんの今後の進め方も含めて御意見等頂きたいと思えます。

挙手によりお願いします。

ちなみに資料につきましては先ほど触れましたけども、15日の茨城新聞が一つ目として入ってます。それから当日の市民説明会の資料、これが二つ目として入ってます。三番目に市民説明会の開催までを時系列で当委員会と執行部の動きを分かりやすく明示しております。

皆様方の御意見を頂きたいと思います。

○西山委員長 大関委員。

○大関久義委員 会派から執行部のほうに要望じゃないですけども、意見書を会派で出されたところもあると思うのですが、そういうものも踏まえた中で、9月の補正をとって調査をするというのは、延命化だけの調査なのか、それとも違う方法いわゆる高効率の発電をしたときにはどのぐらいかかるのか。この前聞いたときは、今のままの延命化の改良では、発電の設備は持つことができないというので投資をするだけなのです。高効率でやった場合は投資もするけども回収もできる、いわゆる還元もある。発電をすることによって還元ができるというようなもので、どちらが投資効果がいいのかということを知りたいという意見を会派で出してあるのです。その辺のところを両方調査してもらえるのか、それとも延命化だけの調査なのか、その辺のところははっきりしたい。延命化のための調査というふうにならうと、それだけしかないのかと思う。100億円近いお金をかけるわけです。合併して一番大きな事業なのです、前にも言いましたが。市民の税金をそれだけ投入する大きな事業であるため、将来の笠間市にとってどっちがいいのかを見極めたいという思いが強いので、その辺のところは、執行部のほうによろしくお願ひしたいというふうに思っております。

○西山委員長 石井委員どうぞ。

○石井栄委員 今後の動きとして、執行部としては延命化の方針でいきたいという考えです。しかし、補正予算で調査検討のための費用を計上して、現在の施設がどれだけ延命が可能なのかということなどを具体的に調査をして分かってくるわけです。その結果が調査特別委員会のほうに提示をされて、基本的には延命化の方針としては、20年程度延命化させたいということを行っています。20年程度延命化して、それ以後は近隣の市町村云々という話がありましたけれども、調査結果に基づいて、いろいろな施設が延命化の方針で進めようと思っても、例えば極端な場合、5、6年しかもたないとか10年しかもたないとかという場合には、結果をしっかりと出して頂いて、調査検討委員会のほうでも議論をして、その議論を執行部のほうの政策に反映することができるのかどうかということだと思っております。この調査検討委員会は、新しい施設が完成するまで開催していくということが当初の方針としてあったと思うのですけれども、その辺については、そういう調査結果、そういうというのは、20年をはるかに下回る寿命しかもたないのではないのかという調査結果などが出た場合には、その内容について、さらに検討を深めていくことができる

のかどうか。その辺は、一つ大事な点かと思うのです。そういうことを思っています。

以上です。

○西山委員長 石松委員どうぞ。

○石松俊雄委員 市長には提出はしなかったのですが、一応私どもの会派の意見を出させて頂いているのですが、いろいろここで議論してもポイントは今ある既存の施設が本当に使えるのかどうかといういわゆる健全性調査の結果がまず出てみないと、延命化ができるのかどうかというのが分からないというのが大前提であるということと、それから調査診断の中で私たちが注意をしてみなければいけないのは、基幹設備の改良費用がコストの過小評価になってないかというところは、専門家の意見もあったので、そこはきちんと一つの見ていかなきゃいけないポイントだと思うのです。

それともう一つは、先ほど石井委員やほかの委員も言われていたのですが、実際のところどれぐらいの期間運転ができるのかというのも見ていくというのが二つ目の着目ポイントだというふうに思います。

そのポイントを持ちながら、執行部が補正予算で組んでいる既存の健全性の診断評価の結果が出た後、委員会の中では、次のことをどうするという議論をするというのが一番私どもは効率的じゃないかというふうに思っておりますので、次の段階では、そういう進め方にして頂ければと思います。

以上です。

○西山委員長 大貫委員どうぞ。

○大貫千尋委員 今、石松委員から提案がありましたが、プラスして調査するのであれば、人口の変動を見たときに、あと数年、10年以内ぐらいで6万2、3,000人に人口が笠間市はなるだろうということであれば、人口の推移からすれば60トン規模で間に合うのです、1万人10トンだから大体。新設の場合であっても60トン30トン2基で、ごみが幾らか余っちゃうようなときは2基を燃して、ごみが減ってきたらば前に燃してた方を1基休めるという方法であれば、60トンで間に合うのです、今の人口推移の中では。これは、よその施設の経過やそれに携わった人間に聞けば簡単に分かることです。1万人に対して大体10トンなのだよ、効率がいいのは。

あと一つ、CO2の削減だとか何だとか言いながら、地元から反対が出たからバイオをやめたわけなのだけど、執行部の一貫性がない、バイオをやるのは何の目的だかんの目的だと言っていないながら。

今の施設を利用した場合お金は新設よりかかります。そんなことは聞かなくても分かること。専門家の誰かに聞けば分かる、簡単に。現実には、1年ないし1年半ぐらいの工期の中で、1炉を直すのに1炉しか使ってもらえないわけだから、1炉壊れたときにどうするの、誰に燃してもらうの、そこまで考えなきゃならないわけだ、もう古い炉なのだから。2炉一緒には直せないから、1炉ずつ直すのです。そのぐらいは分かるでしょう、皆さん。

1 炉ずつ直したときに古い炉を 1 炉燃してるわけだ。故障したらどうするの。古い施設をそのまま直して延命化を図るのだという場合は建て替え用地がない場合なのです。新しくつくるよりも、古い炉を 20 年なら 20 年使うようにするのは、新しい施設をつくるよりかかるのです、お金が。

どういう試算を出すかわからないけど、基本的に私は執行部がやることは信用してません。その第一番は 80 トンの小規模で建てて高効率発電をやった場合の値段と 65 トンの焼却炉に対して 35 トンのバイオ発電をやるお金が一緒だという数字は、私に言わせれば、テープに取って頂いても構わないのですが、インチキコンサルタントです。一緒の値段を出してきたことを執行部がおかしいんじゃないかという判断ができないのです。誰が考えたって 65 トンの焼却炉と 35 トンのバイオ施設合わせて 100 トンの施設と 80 トンの高効率発電の施設の建設費と 20 年間のメンテナンス料が一緒だなんてばかげた数字です。実際は、私がウイスキー 1 本か 2 本で試算してもらって、こういう資料が出ているのだけどといって赤線で直してもらったのです。あれが簡単な数字です。その辺をよく精査しないと、私ら年長者はやめていく議員だから構わないけど、これから 2 期も 3 期の残る人らは、10 年もたったらまた壊れちゃった。長谷川君、君の責任だよ、酒井君、君の責任じゃないか、河原井君、君も賛成したのだろうと必ず言われるからね。私が生きてれば言うよ、何やってたと。だから最低限の勉強は議員の皆さんにやってもらいたい。ちょこっとドアを開ける。知り合いの人をたどっていけば、ある程度知識のある人は分かるからそんなこと。それができるかできないかが議員の仕事なのだから、我々は行政がやってることのチェックマンなのだから、その辺の自覚を持って頂きたいと私は思います。

だから、石松委員の提案と同時に、60 トンないし 70 トンで高効率発電。高効率発電しなければ、今まで執行部が言ったことは結局はうそになっちゃうのです。CO2 の削減にならないわけだ。高効率発電しなければ、燃したエネルギーは全部水蒸気になって空に出しちゃうわけです。あれ煙じゃないですから、水蒸気にして出しているのですから。今、煙を出すのは違反だから出せない。今の焼却炉 30 年前の焼却炉であっても、すーっと上がってるのは水蒸気なのです。煙は出せないですから。だから、あの水蒸気もったいない。CO2 をつくってるわけです、あの水蒸気は熱を上を上げて。だから、焼却炉に対して高効率の発電をしないということは、CO2 の削減にはならないし、今までバイオをやろうとした理屈は成り立たないということです。今の古い施設を直した場合、高効率の発電はできません。できないのです。施設をほとんど壊すようになっちゃうから、高効率発電を付けると。さっき益子委員が言った 400 万円とかというのは、数字違うからよくもう一回確認したほうがいいよ。70 トンクラスの高効率発電で、年間、今電気代が高いせいもあるので、7,000 万円から 8,000 万円近く稼いでいるといいます。70 トンの高効率発電です。だから、35 トンのバイオで 400 万円、500 万円というような数字は違う。

以上です。

○西山委員長 副委員長。

○益子副委員長 執行部の出された最終報告書は最終決定ではないと思っております。調査結果を待たなければ基幹的設備の延命化には結びつかないと思っておりますので、それを待って今後は委員会をやるのが一番いいと思っております。

以上です。

○西山委員長 河原井委員どうぞ。

○河原井信之委員 大関委員や大貫委員の言われることはそのとおりだというふうに私も思っています。40年後を考えて、例えば基礎コンクリートの強度がもつかどうか分からない状況ですが、分かったときに、もつよとなったら20年しかもたないというようなことになると思うのです。さらに40年たったときに、建築コストも相当上がると思うのです。20年延命のときに、次は新築のことをしなくちゃいけないとなったときに、今の段階で新築しとけば、トータルに考えれば40年を抑えることができるということも検討する必要があるというふうに思います。

あと、還元の部分で、先ほどもお話ありましたが、高効率で余熱を利用したするときには、今は余熱を利用しないという形ですけども、余熱を利用したときには、60トン以下では余熱の配管が通らないので、60トン以上になると。70トンとかという形になってくると思うのです。それで出てく入りの計算と20年先40年後のコストの計算も執行部のほうには出して頂きたいというふうに私は思います。それはこれから調査して方向性が決まってくるので、既存を利用する、延命ありきではないと思うのです。なので今の段階では、しっかりとその辺も私たちの特別調査委員会には示して頂きたいというふうに私は思います。

以上です。

○西山委員長 内桶委員どうぞ。

○内桶克之委員 方向性としては延命化の方向で、これから補正予算を取っていくということなのですが、延命化に対しての基礎調査から調査の内容までが、ちゃんと出てから議論をするということが大事だと思うのです。

この前も懸念されているのは、105トンのものを延命化して24時間運転をするとか、マテリアル施設も14トンで済むところを35トンあってそれを縮小していきと。調査の段階で、費用が今のところ延命化が77億円ぐらいで済むそうだと、補助金の関係とか国の交付金の関係でいくと安くなるということを言っていますが、延命化のところが大分高くなれば、新設のほうとの比較検討というのが当然なされるべきだと思っております。まずは延命化でどのくらいかかるか。先ほど言ったように、寿命のところもしっかり判断していかなければならないので、その部分も含めて比較検討するべきだと思う。新設については、今までの定量評価の比較のときに、バイオガスと焼却マテリアルだけの新設の場合ということが出るので調査の部分はないのかと思います。延命化の部分をしっかり調査した上

で比較検討するのが大事だと私は思います。

よろしくお願ひしたいと思ひます。

○西山委員長 酒井委員どうぞ。

○酒井正輝委員 聞いていて思ったことなのですけど、結論から言うと提言書という形で議会の意見をまとめるというのが妥当じゃないですかと思ひました。

委員の皆さんの御意見を伺っていて、例えば石松委員がおっしゃったように、今の現状の施設の老朽化度合いを調べていかないとこの話は進められないとか、もっともだと思ひのです。あと規模の話、大貫委員とか政研会からも出てますけど、サイズ、人口に鑑みて縮小したらいいのじゃないかとかいろいろ出てるじゃないですか。そういったことを、議会の意見まとめてクリアしたものを説明してという要求だと思ひのです、この現状皆さんの意見聞いたけど。今、ちょっとメモしてたのは現状の老朽化度合いとか、専門家の指摘をクリアできるのかとかいうと、あとどれぐらい運転できるのか、あと規模の話、コスト、エネルギー利用がどれぐらいできるのかということ、それぐらいだと思ひのです。それをまとめたものを議会の意見として投げて、これをちゃんと説明してくださいというのをやらないと、何かまたちゃんと説明しろとか過去と同じような話になってしまうので、提言書ないし意見書みたいにまとめて出して、返してくださいというのが妥当なじゃないかと思ひました。

付け加えておくと、それはいつ頃に算出されて出るのですかというの、なるべく早めに聞いておきたい。あとは毎回言ってることなのですけど、ちゃんと根拠も、数字の根拠とその途中の計算どうやっているとか、それを含めて説明してください。インチキコンサルが言うような、コンサルが言ってますとかそういうのじゃなくて、途中の計算式を分かるような説明をしてくださいというのを個人的には付け加えたほうがいいと思ひます。その上で、議会の要求する項目をクリアした説明をしてくださいと要求するのが妥当なじゃないかと思ひました。

○西山委員長 全員協議会前の限られた時間の会議なので整理したいと思ひのですが、皆さんの意見を総合しますと、まず3日の説明会の件が、市民といつても50名ちょっとということなので、それを市民という表現が正しいかどうかは別としても、形式上の説明会が終わった。その中で、事前に副市長からの説明があった。委員会と執行部とのやりとりを説明会の中で反映するよということであったということなのですが、結果として新聞報道されたのは延命化ありきようになっております。各委員から出ましたが、9月の補正で予算化された調査費をもとに調査をして、数字も含めて方向性が出るので、それをさらに議論しましょうというのが正しい表現なのかと思ひのです。そう考えますと、この新聞報道そのものが、記者が現場にいて記者が得た表現ではないとすれば、取材を通じてということになるでしょうから、その部分について、正副委員長と事務局を交えて確認をさせて頂きたいと思ひのです、その部分については。

それが一点と、せっかく皆様方から意見を頂いて9日に私と副委員長で直接山口市長あてに提出したものについて、反映というか部分がちょっと見えないので、改めて委員会の考え方として、本日いろいろな意見出ましたけども、改めて意見を集約して、簡単ではないと思うのですが、やはり活字にして残すべきではないかと思うのです。

こんなふうな進め方で御了承頂ければ、日程等を再度検討しまして皆様方にお知らせしたいと思います。

いかがでしょうか。

連休がちょっと入っちゃうので。

○西山委員長 はい、内桶委員どうぞ。

○内桶克之委員 活字に残すということは、この委員会で出た意見を執行部に報告するというのでよろしいのですか。こういう意見が出ましたということを経理長名で報告するということですか。

○西山委員長 そうです。

はい、大貫委員。

○大貫千尋委員 こんなことは皆さん承知の上だとは思いますが。あれを延命化したと、20年、そうすると20年で償却することだから、1年に幾らって計算できますよね。新設の場合は、今最低でも40年だから、要するに投資したものが40年使えるということだから、1年間の減価償却は半分になるわけだ。その辺の理解は議員の皆さんに共通認識として持っておいて頂きたいと思います。

それと高効率発電を70トン規模でやった場合、新設の場合、どのぐらいかかるかというのを並行してやって頂かないと、あれですよ、・・・

〔「前に数字が出ている」と呼ぶ者あり〕

○西山委員長 暫時休憩いたします。

午前9時51分休憩

午前9時52分再開

○西山委員長 休憩前に引き続き会議を開きます。

それでは先ほどお話ししたような内容で、まず一点、新聞報道の内容を確認します。これは私どもにお任せ頂いて、次に今日の意見、プラスアルファになるかと思いますが、意見を集約して、特別委員会の意見として提出すると。準備をします。

畑岡委員。

○畑岡洋二委員 いろいろ皆さんの意見なり流れを聞いていて思うのですが、これまで40回近くやってきて、最初は、次世代型と思われるものをやりたいとずっと執行部が言ってきた。それに対して、この委員会の多くの考えとしてそれ高いのじゃないかという話があったときに、もう一度という流れと、最近のいろいろな物価高が相まって、当初

思っていたよりも、ひょっとしたらもっとかかりそうだというもろもろがあった中で、もう一度考え直した結果として、一番メインとした物差しが、まさしく初期コストという形で一番かかりそうもないその現状を、大規模改修するということに大きな方向転換をしたと私は理解しています。大きな方向転換があったので、まず執行部は特別委員会に説明をして、それを受けて市民にも今までこういうことやりたいと説明会を開いていたから、その大きな方向転換ということで先日の説明会があったと私は理解してるのです。とはいっても大規模改修は本当にどのぐらいかかるか分からないから詳細の調査をしたいという流れなのだろうと私は思っているのです。ここでまた、このやり方もこのやり方もみんな議論してください、詳細調査をしてくださいというところがまた戻っちゃうような気がするのです。それでいいのだろうかというのは私思っていて、いろいろなことをやって、一つの方向として、大規模修繕というふうに一回収れんし始めたとは私は理解してたのです。私はそれに対して100%同意はしてないけども、そういうことではしょうがないだろうと。だったらこういうことで、政研会の意見という形になりましたけども、そのときにはこういうことを考慮してくださいという意見を出させて頂いたということなのです。だから、ここでまたこの意見って何なのだろうとよく分からないのです。いろいろなことを言ってきて、執行部の考えを大きく変化させたという結果があったと私は思ってるのに、またここで意見をやって、また後戻りするのかなというふうに聞こえるので、その辺がちょっとよく分からないというところなのです。また戻しちゃうのですかということになっちゃうのです。一回変えさせたでしようという私たちの結果としてあるのに、それをまた戻すのかというのがよく分からないというところが、私の今の認識なのです。

以上でございます。

○西山委員長 石井委員。

○石井栄委員 内容については、それぞれいろいろな考え方が現時点でもあるのじゃないかと思うのですけれども、調査結果でどういう結果が出たかということで、延命化の期間とか費用などがいろいろ明らかにされると思うのです。その結果を踏まえた議論が調査特別委員会でなされて、調査結果に対する議論を反映した執行部の方針ができるものというふうに思っております。要するに中身に触れるのじゃなくて、手順をしっかり踏んでもらいたいということが、この委員会での提言の内容でいいんですよね。中身がこれは駄目だこれはいいとかということに入らないで、しっかり手順を踏んで検討ができるようにということでもいいのですよね。

そのことを確認します。

○西山委員長 石井委員。多分今まで積み上げてきたものを考えれば、中身なのだと思うのです。具体的に中身がどうなのかを、我々も知り得た情報とか知識の中で方向性を出すべきだと思うのです。もちろん具体的には無理でしょうけれども、必要なカードとして数字を出してということになると思うのです。ただ、延命化については、最終報告の中で延

命化で進めたいのだという話でしたよね、執行部は。そこはこの間、副市長がここでお話しして、それ以上も以下もありません。現在進行形で進めたいのだ。行くではなくて行きたいのだということだったと思うのです。ただ、表現が、少なくとも新聞報道記事を見ると延命化ということだと思ふのです。延命化の理由もちゃんとうたってあります。ただ、理由の中に、根拠となる、要するに健康診断です。健康診断できてないじゃないの。そしてそれによつては、いやいやとんでもない金額かかっちゃうといったときに、もし数字のことだけを追いかけたのではおかしくなります。加えて、人口減少はどこに反映してますかということも皆さんの頭の中にあると思うのです。ですから、それを次の委員会の中で取りまとめをして、委員会としてはこういう考えしてます。こんなふうに具体的には進めるべきでしょうというようなことまで、踏み込んでもいいのじゃないかと思うのです。

いかがでしょうか。

要するに私が言いたいのは整合性がないです。委員会をなんだと思っているのだ。先ほど畑岡委員が言いましたけど、委員会って何やってるのって、そういうふうに見えてしまうと思うのです。執行部を中心に物事を考えていくと、何か委員会が何かちょっとよたよたして、あっち行ったりこっち行ったりして、例えば、その話はもう終わってるでしょうみたいなことも、現在ここまで来てますよ執行部みたいな、そういうふうに見えてしまうと思うのです。ですから、それを一回ここで整理しましょうということを今回提案させてもらったのです。ですから、選挙が終わって連休明けのタイミングで、もう一度皆さんの意見を集約したいと思っているのです。その中にはいろいろな意見があつてしかるべきだと思いますので。

ただ、一番大事な整合性。両輪という部分でいくとちょっと違うのじゃないですかと思つたのです。私も、この立場で、委員会の在り方をきちんと皆さんに恥じないような運営をしたいと思つていますので、御協力を頂きたいと思つています。

そんな感じでよろしいですか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○西山委員長 それでは繰り返しになりますが、一点、新聞報道の精査をさせて頂きたいと思つています。

もう一つは、皆様方の意見を集約するために、次回の開催日を、幾つか協議しまして皆さんに提案しますので、連絡待ちということをお願いしたいと思つています。

そのほかなければ。

大貫委員。

○大貫千尋委員 3番目の比較検討の内容というところに、数字が入っているのですが、この数字の根拠は何なのかを聞いてください。誰がだした数字か。

○西山委員長 了解しました。

なければ、以上で本日予定しておりました案件は終了いたしたいと思つています。

よろしいですね。

次回の日程については追って連絡をしますので、皆さん御協議ください。

なければ、これで終了したいと思います。全員協議会に食い込んでしまい、議長申し訳
ありませんでした。

これで終了いたします。御苦労さまでした。

午前10時02分閉会